

夏ノ九裏

をみてすみかとすればとよませ給けんと
の思ひ出られて

木のもとにすみけるあとをみつるかな

ならのたかねの花をなかめて

かれたる桜のとしふりたる枝〈えだ〉のひとふさ
咲たるに

わきてみん老木〈おいほく〉はひも哀〈あはれ〉なり
今いくたびか雲にあふべき

山里に引かへたるすまゐにそめは心